

おおまえたまち ししまい 大前田町の獅子舞

おおまえたまち すわじんじや ねん ながのけんすわたいしや ぶんし ねんよ
大前田町の諏訪神社は1403年、長野県諏訪大社から分詞されたもので、600年余
でんとう じんじや
の伝統ある神社です。

ここに掲げました獅子舞の写眞は、江戸時代の初期の頃から今日まで約400年間、
おおまえたすわじんじや でんしょう こんにち まえばしし むけいぶんかざい してい う
大前田諏訪神社に伝承されてきたもので、今日では、前橋市の無形文化財の指定を受け
ております。

ししまい きげん むかし しなの くに げんざい ながのけん いのしし しか あたま しんぜん そな
獅子舞の起源は、その昔、信濃の国（現在の長野県）で、猪や鹿の頭を神前に供
しゅうかく かんしや
え収穫を感謝してきたとされています。

まち ししまい りゅうどうししまい しし おのおの ひとりだてさんとうまい しし
わが町の獅子舞は「龍頭獅子舞」です。その獅子の各々は「一人立三頭舞」で、獅子
には「父」「母」「息子」獅子があり、「父頭」と「息子頭」は黒うるし塗、「母頭」は
しゅ むすこ しし ちちがしら むすこがしら くろ むり はしがしら
朱うるし塗です。また、父と息子には角が二本、母には角が一本ついている。他に、ひ
よっとこ一人、おかめ一人、笛四人、歌唄い三人で構成されていて、流儀は
ひとり ひとり ふえよにん うたうた さんにん こうせい りゅうぎ
「日挟流」と言われている。

ししば おお まんとう た たくさん たんざく つ たんざく
獅子場には大きな万燈を立て、それには沢山の短冊が付けられている。短冊には、
てんかたいへい かないあんぜん ごこくほうじょう ようさんばいせい しょうばいはんじょう か さいきん
天下泰平、家内安全、五穀豊穰、養蚕倍盛、商売繁盛などが書かれており、最近で
むびょうそくさい こうつうあんぜん けんこうちょうじゅ がくぎょうじょうじゅ ことば み ししまい
は無病息災、交通安全、健康長寿、学業成就などの言葉も見られる。獅子舞にはこ
まんとう しゅうい まわ けいしき ま ほうのう
の万燈の周囲を回る形式で舞い、奉納されるのです。

まんとう がつ にち つく なら ていれいじょうえんぴ がつ にち
この万燈は、十月十五日に作られる慣わしになっており、定例上演日は十月十七日
で、十月七日から練習に入るとのこと。最近では毎年、十月第三日曜日に奉納されて
います。

むかし ししまい にしはらちく しも すわじんじや おこな ほぞん
さて、その昔。この獅子舞は西原地区の下の諏訪神社で行われていたが、保存して
こや かさい ししがしらさんたい ひ たま いま すわじんじや ほう と
いた小屋が火災になったとき、獅子頭三体は火の玉となって、今の諏訪神社の方へ飛ん
で行った。それからは今の諏訪神社で行うようになった、と伝えられている。また、
い いま すわじんじや おこな つた
寛政十一年の夏に大旱魃があったとき、獅子舞で雨乞いをしたところ大いに雨が降った
かんせい ねん なつ だいかんばつ ししまい あまご おお あめ ふ
という。その後も、悪疫流行の時には、村中の家々を回って悪疫退散を行ってい
る。ご あくえきりゅうこう とき むらじゅう いえいえ まわ あくえきたいさん おこな

せんご ごこくじんじや めいじじんぐう やすくにじんじや ほうのう
戦後は、護国神社、明治神宮、靖国神社に奉納したこともある。

『毎年、十月第三日曜日が町の「秋祭り」です。是非、祭りを楽しみ、この獅子舞を観賞
してみてください。』

ひろし
(大前田 加藤紘史)